

続・3つの「ワーク」③ネットワーク

企業経営漫談士 岡野実空

「続・3つのワーク」の最後は、個人の「ヘッドワーク」と「フットワーク」を補完する「ネットワーク」。しかしその大本は、個々の「専門性」。またそれらを結び、相乗効果を発揮するための「双方向性」です。そしてその「知識」や「行動」を、「知恵」や「貢献」に高めるものは、「目的」や「ビジョン」への「共感性」。今回のコラムは、私たちの NPO を事例に、それら「ネットワーク」の要素を考えます。

要素1：専門性

「知識社会」における「ネットワーク」の要素は、まず個々の「専門性」。かつてのような名刺のばらまきは、いまやエネルギーの浪費に過ぎません。

さて私たちの NPO「マネジメント共有ネットワーク」が発足したのは、約10年前。あるセミナー参加者の熱心な働きかけで、氏の勤務する企業の幹部候補生教育を受注できたことがきっかけでした。またその目的は、従来の経営教育に止まらず、各講義後の活発な議論をつうじて、新たな経営のコンセプトを見出すという意欲的なものでした。

その実施には、ヒト・モノ・カネなどの基礎科目に加え、当該の業界を熟知する「専門家」の参加が必要になります。またその講師陣には、各々の担当分野の見識に加え、他分野との「汽水域」にも入り込める、「専門性」の幅と深みが求められました。

さらにその高いハードルをクリアするには、各回の議論をつうじて新たなコンセプトを生み出す、「編集」技術に長けた「専門家」の参画が必須です。そしてその言動は、経営の要となる「編集」という領域において、参加者の手本でもあるのです。

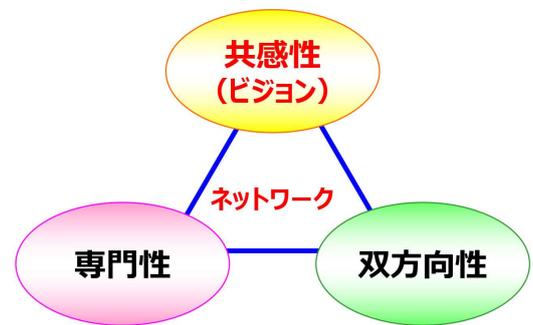
要素2：双方向性

「ネットワーク」2番目の要素は、コミュニケーションにおける「双方向性」。それは講座間の擦り合わせでなく、すべての講座との調整や融合により、相乗効果を高めるために欠かせないものです。

その全体の「双方向性」の核となるのは、やはり「編集者」。講師間を結ぶ情報スポークのハブとして、必要な情報の円滑な流れを見守るだけでなく、それが滞ったときは通訳として積極的に機能し、その相乗効果を促進するからです。

また同時に、参加者の「双方向性」を高めることも忘れてはなりません。それは対講師だけでなく、参加者間の議論を活性化し、優れたアウトプットに結びつきます。そしてその多面的な積み重ねこそ、企業幹部に必須なコミュニケーション能力向上の最適な訓練となるのです。

z-09 「ネットワーク」の3要素



要素3：共感性

「ネットワーク」3つ目の要素は、「目的」や組織の「ビジョン」への「共感性」。それは先の「専門性」と「双方向性」による「仕事」を、社会に向けた「貢献」にまで高める要素です。

因みに、私たちが特に意識するのは、顧客の「ビジョン」。それが曖昧な場合、私たちの言動は、単なる「請負仕事」にならざるをえません。しかしそれに「共感」すれば、「仕事」は手段に転じ、それをつうじた「貢献」が目的になります。さらに参加者との一体化が実現すれば、各々の「専門性」はフル稼働し、相乗効果は飛躍的に高まるのです。

さて MCN のビジョンは、「ふつうの人をイノベーターにし、ふつうの組織にイノベーションを興す『触媒』となる」です。発足からこれまで、さまざまな試行錯誤を続けてきましたが、このたびその『触媒』を『具体⇄抽象』訓練に定めました。ICTの進歩に伴い、それが「知識社会」におけるすべての個人と「ネットワーク」の優劣を決める「能力」の核心となることが鮮明になったからです。

そのため、来たる設立10周年に向け、私たちはいまその整備を加速しています。皆さんと一体になった次世代「ネットワーク」作りに向け、忌憚ないご意見、ご要望をお寄せください。お待ちしております。

2021年2月22日 実空

☞『三々な経営』3-10 「組織内一人親方」のすすめ